

哲學研究

第五百八十四號

平成十九年十月十日發行

ウェルブルムと形象……………川添信介

——トマス・アクイナスの認識理論との関連で——

「科学作品の現象学」の試み……………原田雅樹

——量子論における局所性、並びに代数的視点と

幾何学的視点の干渉——

「経験の可能性の制約」から「可能的経験」へ……長田蔵人

——カント「純粹理性批判」における演繹論と図式論——

パースの批判的常識主義……………佐々木崇

京都大學大學院文學研究科内

京都哲學會

京都哲学会規約

- 一、本会は広義における哲学の研究とその普及を図ることを目的とする。
- 二、右の目的のために左の事業を行う。
 - (一) 会誌「哲学研究」を発行する。
 - (二) 毎年公開講演会を開く。
 - (三) 随時研究会を開く。
- 三、本会の事業を遂行するために委員若干名をおく。委員会の中から互選により代表一名をおく。委員は京都大学大学院文学研究科の旧哲学科系所属教官の有志、および委員会において推薦したものに委嘱する。
- 四、委員会の中に「哲学研究」の編集委員会をおく。
- 五、本会は賛助員若干名をおく。賛助員は会員の中から委員会が推薦する。
- 六、本会は会員組織とし、会員には資格の制限を設けない。学校・図書館・其他の団体は団体の名を以て入会することができる。
- 七、会員は年会費一、〇〇〇円と会誌代五、〇〇〇円（数冊分）を前納する。
- 八、会員は会誌の配布を受け会誌に予告する諸種の行事に参加することができる。
- 九、本会は事務所を京都大学大学院文学研究科内におく。
- 十、規約の改正は委員会の決定による。

京都哲学会委員

*
伊藤 伊藤 板倉 池田 芦田 蘆田 赤松
宇佐美 藤 藤 倉 田 名 田
落合 阪 美 藤 藤 倉 田 名 田
片岡 合 阪 美 藤 藤 倉 田 名 田
川添 柳 合 阪 美 藤 藤 倉 田 名 田
小多 柳 合 阪 美 藤 藤 倉 田 名 田
櫻井 林 多 添 柳 合 阪 美 藤 藤 倉 田 名 田
杉村 井 林 多 添 柳 合 阪 美 藤 藤 倉 田 名 田
出中 村 井 林 多 添 柳 合 阪 美 藤 藤 倉 田 名 田
徳口 中 村 井 林 多 添 柳 合 阪 美 藤 藤 倉 田 名 田
中畑 永 口 中 村 井 林 多 添 柳 合 阪 美 藤 藤 倉 田 名 田
根立 村 畑 永 口 中 村 井 林 多 添 柳 合 阪 美 藤 藤 倉 田 名 田
福立 村 畑 永 口 中 村 井 林 多 添 柳 合 阪 美 藤 藤 倉 田 名 田
藤田 谷 立 村 畑 永 口 中 村 井 林 多 添 柳 合 阪 美 藤 藤 倉 田 名 田

藤田 正勝
松田 素二
水谷 雅彦
御牧 克己
宮崎 泉
（* 京都哲学会代表）

会 告

京都哲学会公開講演会予告

日時 十一月三日(土) 午後一時半

会場 京都大学百周年時計台記念館国際交流ホール

一、宗教哲学へ……………京都大学大学院准教授 杉 村 靖 彦
——「証言」という問題系から——

一、共同体概念の再想像について……………京都大学大学院教授 松 田 素 二
——アジア・アフリカ社会のフィールドワークから——

※ 右終了後京大大会館において懇親会(パーティー形式)を開きます。(会費五千円)
※ 所属機関長宛出張許可依頼状御入用の方は京都哲学会までお申出下さい。

平成十九年九月

京 都 哲 学 会

会 告

一、本会は会員組織とし会員には資格の制限を設けません。入会希望の方は京都市左京区吉田本町京都大学大学院文学研究科内京都哲学会（振替口座〇一〇二〇一―四〇三九 京都哲学会）宛に年会費一、〇〇〇円と会誌代五、〇〇〇円（教冊分）をお支払下さい。又会員への会誌送付、バックナンバー購入及び発売に関する一切は東京都千代田区麹町二―六―七創文社（振替口座〇〇―二〇一―〇―九二四七二）宛に願います。

一、会員の転居・入退会の事務及び編集事務の一切は京都哲学会宛に御通知下さい。

一、本誌の編集に関する通信・新刊書・寄贈雑誌等は本会宛にお送り下さい。

一、本誌への論文の投稿は、原則として本会会員のみ受付け、掲載の可否については、編集委員会と編集委員会で委嘱した委員（若干名）の査読を経て、編集委員会で決定する。（本会主催の公開講演会の講演原稿の掲載など、編集委員会依頼による論文掲載については、この限りではない。）

京 都 哲 学 会

〒六〇六一八五〇一
京都市左京区吉田本町
京都大学大学院文学研究科内
（〇七五―七五三一―七三三）

平成十九年十月五日 印刷
平成十九年十月十日 発行

編集兼 京 都 哲 学 会
発行人 京 都 哲 学 会
編集委員

伊 藤 邦 武
赤 松 明 彦
水 谷 雅 彦
櫻 井 芳 雄

発 売 所 株 式 創 文 社

久 保 井 浩 俊

〒一〇二―〇〇八三
東 京 都 千 代 田 区 麹 町 二 一 六 一 七
電 話 〇〇三―三六三―七二〇一
振 替 〇〇二―〇〇一―〇九二四七二

印 刷 所 株 式 会 社 曙 印 刷

註 文 規 定

一、本誌の御注文はすべて代金送料共（一部、送料七
三円）前金にてお送り下さい。

THE JOURNAL
OF
PHILOSOPHICAL STUDIES

THE TETSUGAKU KENKYU

NO. 584

October

2007

Articles

Verbum and Species in Thomas Aquinas's Theory of Cognition Shinsuke KAWAZOE

An Attempt at Phenomenology of Scientific Works
—Interaction between algebraic and geometric perspectives,
with reference to the notion of locality in quantum physics—
.....Masaki HARADA

*Von den „Bedingungen der Möglichkeit der Erfahrung“ zu
der „möglichen Erfahrung“*
—Deduktion und Schematismus in Kants
Kritik der reinen Vernunft—
.....Kurando OSADA

Peirce's Critical Common-SensismTakashi SASAKI

Published by
THE KYOTO PHILOSOPHICAL SOCIETY
(The Kyoto Tetsugaku-Kai)
Kyoto University
Kyoto, Japan

ISSN 0386-9563

雑誌コード 06427-10 定価 2,625 円 (5%税込) 本体 2,500 円